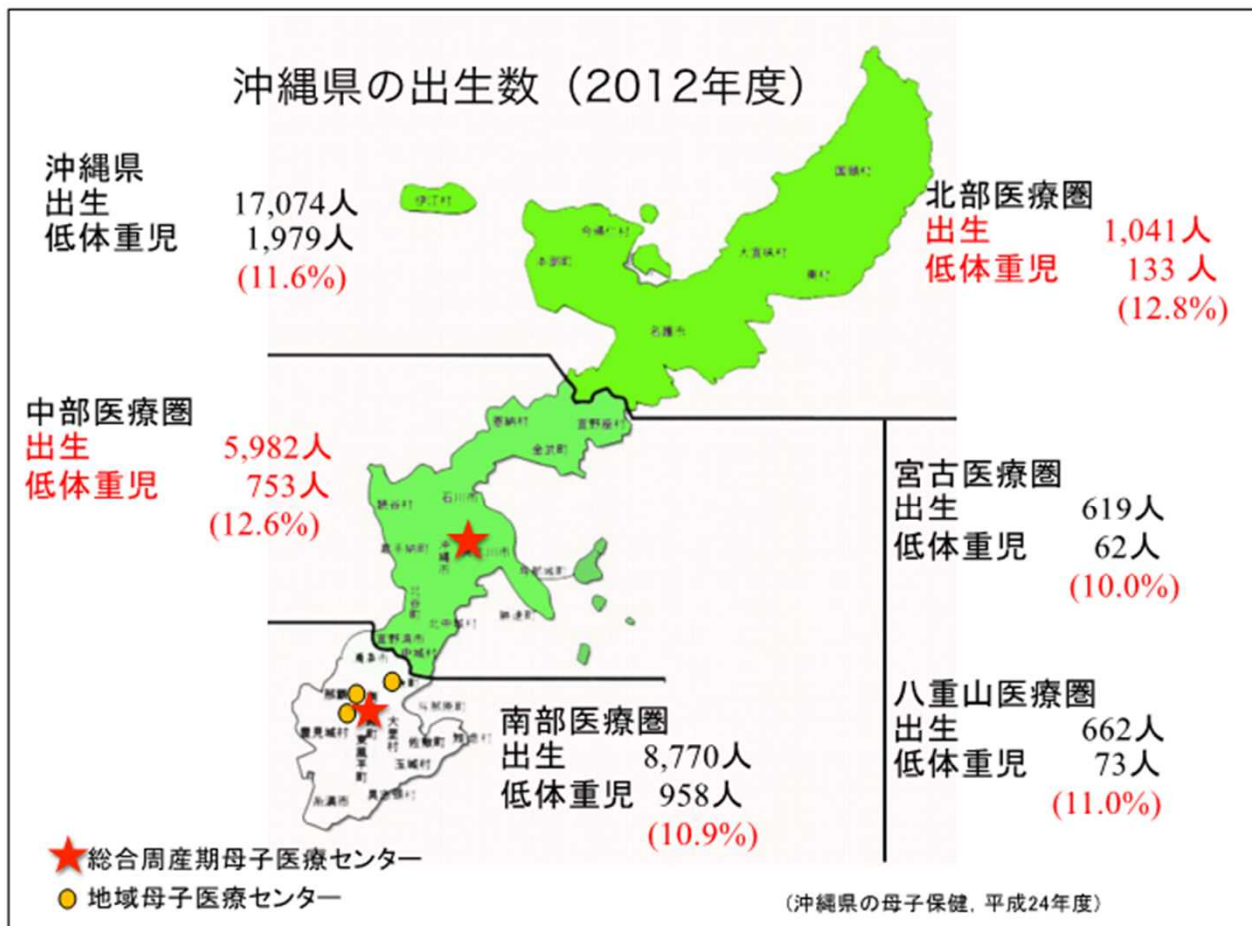


周産期医療  
小児医療

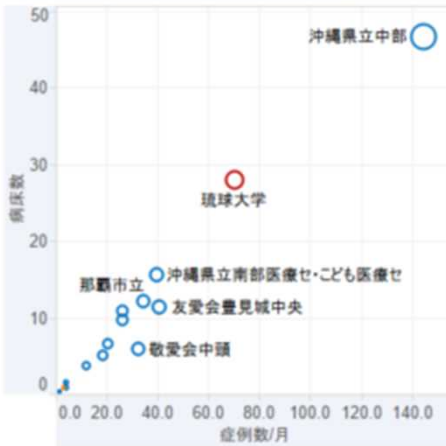


MDC 12

DPC6title All

DPC6title	病院数	症例数 /月
120010 卵巣・子宮	3.00	15.1

PREF	MED2	病院数	症例数 /月
47	4701 北部	1	3.8
沖縄県	4702 中部	3	195.3
	4703 南部	9	231.8
	4704 宮古	1	26.3
	4705 八重山	1	20.3



MDC12  
女性生殖・産褥期疾患、  
異常妊娠分娩：県



HOSPtitle	症例数 /月	症例数 手術なし	症例数 手術あり	病床数	ALOS	←相対
沖縄県立中部 /31330	144.4	64.6	72.9	46.7	8.7	0.9
琉球大学 /10080	70.3	36.3	31.8	27.9	8.8	0.9
友愛会豊見城中央 /31326	40.7	10.9	27.8	11.4	7.8	0.8
沖縄県立南部医療セ・こども医療セ /31334	39.6	8.8	26.1	15.6	9.7	0.9
那覇市立 /31319	34.5	9.8	21.5	12.1	9.4	0.9
敬愛会中頭 /31322	32.6	2.6	23.0	5.9	6.0	0.8
沖縄県立宮古 /31331	26.3	7.4	13.8	9.7	8.3	0.9
沖縄赤十字 /31335	26.3	4.3	21.2	10.9	11.9	1.0
沖縄県立八重山 /31332	20.3	7.3	11.8	6.6	9.6	0.9
かりゆし会ハートライフ /31327	18.3	5.0	10.3	5.1	7.6	0.7
沖縄協同 /31320	12.0	3.8	4.2	3.6	8.4	0.9
沖縄徳洲会南部徳洲会 /31329	4.1	1.2	0.9	1.6	11.4	1.0
沖縄県立北部 /31333	3.8	0.0	3.6	0.9	6.2	0.7
仁愛会浦添総合 /20090	3.1	0.0	2.8	0.9	8.8	1.0
おもと会大浜第一 /31321	1.3	0.0	1.0	0.4	8.4	0.9

## NICUの必要病床数

1. 出生数は近年減少傾向
2. ハイリスク児の出生率，出生数は逆に増加
3. NICU必要病床数 = 約3床／出生1000
  - A. 全国の主要周産期施設に入院したハイリスク児調査よりNICU滞在期間を推計し算出
  - B. 1994年の推計値から50%増

## 沖縄県におけるNICU必要病床数 2012

沖縄県の 出生数（人）		NICU			GCU		
		必要数	現状	充足数	必要数	現状	充足数
県全体	17,074	52	54	2	104	48	-56
南部	8,770	27	36	9	54	36	-18
中部	5,982	18	12	-6	36	18	-16
北部	1,041	4	0	-4	8	0	-8
宮古	619	2	3	1	4	0	-4
八重山	662	2	3	1	4	0	-4

(中北部の不足NICU 10床, GCU 32床)

## 中北部の新生児死亡率の改善

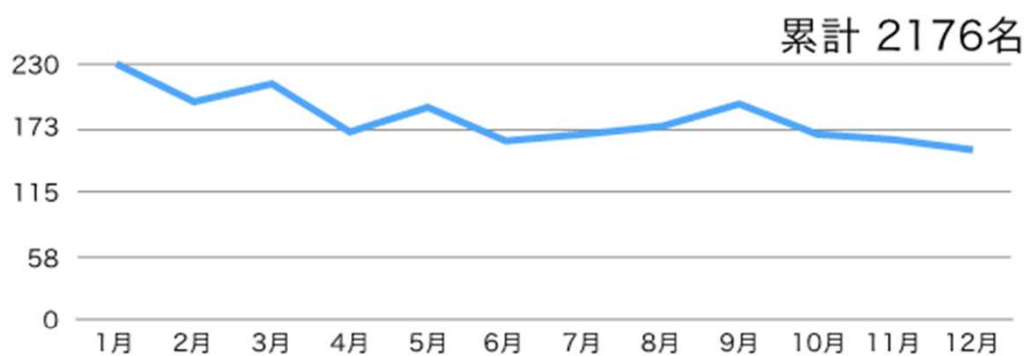
1. 全国的に少ない新生児科医，産科医が集中して周産期医療に対応  
→ 新生児死亡率の改善
2. 産婦人科医，小児科（特に新生児科）医は全国的に不足。  
→ 今後増加する可能性は低い。
3. 少ない人材を有効に活用し，最大限の力を発揮するには一極集中が有効

## 在院日数の全国比較

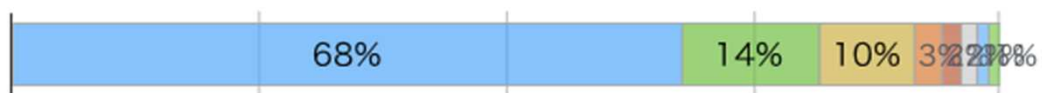
施設	平均在院日数			
	中部病院	全国		
NICU	12.3日	63.6日	5.2倍	62.0床
GCU	15.4日	43.5日	2.8倍	50.8床
MFICU	5.3日	14日	2.6倍	15.8床

- ✓ 全国の平均在院日数は、中部病院NICUの5.2倍GCU 2.8倍、MFICU 2.6倍長い。
- ✓ 当院の在院日数が短いのは、重症な患者を受け入れ入院させるために転床を余儀なくされていることによる。つまり、病床不足に起因する。

## 北部地域からの産婦人科外来受診状況 (2014)



### 市町村別





## 周産期統計（2011年度） 1

統計	全国	沖縄	順位
出生率（人口1,000対）	8.3	12.1	1位
合計特殊出生率	1.39	1.86	1位
低体重児出生率（人口1,000対）	9.6	10.6	2位
乳児死亡率（出生1,000対）	2.3	2.4	20位
新生児死亡率（出生1,000対）	1.1	1.2	17位
周産期死亡率（出産1,000対）	4.1	4.3	28位
死産率（出産1,000対）	23.9	31.8	4位
妊産婦死亡率（出産10万対）	43.8	-	21位

（沖縄県人口動態統計の概況、平成23年度刊行、2011）

## 周産期統計（2010年度） 2

統計	全国	沖縄
10代の出産	1.3	2.6
婚姻率	5.2	6.0
離婚率	1.87	2.6
乳児健診受診率	95.4 %	87.6 %
1歳6か月健診受診率	94.4 %	86.5 %
3歳健診受診率	91.9 %	82.2 %

（沖縄県人口動態統計の概況，平成23年度刊行，2011）

総合周産期母子医療センター  
産科部門

## 総合周産期母子医療センター産科部門

病棟定床	35 ⇒ 43	床
一般病床	29 ⇒ 37	床
MFICU	6	
陣痛室	3	
分娩室（1室は手術室兼用）	2	
産婦人科外来診察室	3 ⇒ 6	室
産科担当医師	7	名
婦人科担当医師	2	名
看護師	45	名
看護助手， クラーク	7	名

病棟増築工事が終了し、2014年10月より運用開始

## 産科統計

		2012	2013	2014	
外来受診数		73.7	78.7	126.7	名/日
<b>病床稼働率</b>		<b>108.7</b>	<b>108.7</b>	<b>101.5</b>	<b>%</b>
<b>在院日数</b>		<b>8.4</b>	<b>6.3</b>	<b>5.7</b>	<b>日</b>
緊急母体搬送 (24時間以内に分娩)		62	60	42	件
MFICU	延入院数	2,612	2,586	2517	名
	稼働率	99.9	100.6	114.7	%
	入院数	4.5	4.0人	6.9	名/日
社会的 妊産婦	未受診妊婦	12	6	2	件
	助産施設適応	19	29	37	名/年
	若年妊産婦	42	47	40	名/年

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター産科部門：2012年1月1日～2014年12月31日)

## 分娩統計

年	2012	2013	2014
総分娩数	1,105	1,172	995
経膈分娩	651	677	556
帝王切開(率)	454(41.1%)	495(42.2%)	440(44.2%)
単胎	1,066	1,121	956
双胎	38	50	39
品胎	1	1	0
紹介患者 (率)	999 (90.4%)	1,082 (92.3%)	941(94%)
母体搬送 (率)	167 (15.1%)	145 (12.4%)	148(14.8%)
死産(率)	8 (0.7%)	7 (0.6%)	8(0.8%)

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター産科部門：2012年1月1日～2014年12月31日)

## 出生体重別分娩統計

	単胎		双胎	
	2013 (N=1121)	2014 (N=956)	2013 (N=50)	2014 (N=78)
<1000g	21	33	9	7
1000-1499g	18	24	9	9
1500-1999g	58	46	21	16
2000-2499g	164	131	38	33
2500g $\leq$	860	722	23	13

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター産科部門：2013年1月1日～2014年12月31日)

## 中部病院出生新生児に占める北部在住者

年	2011	2012	2013	2014
分娩数	982	1216	1317	1034
北部	143	202	201	107
国頭村	4	5	4	1
大宜味村	4	3	3	3
東村		6	3	1
今帰仁村	9	17	12	8
本部町	16	18	30	11
名護市	102	151	146	78
伊江村	4	2	3	2
伊平屋村		0	0	1
伊是名村	2	0	0	2
%	14.6	16.6	15.3	10.3

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター産科部門：2011年1月1日～2014年12月31日)



## 総合周産期母子医療センター新生児部門

病床数	30 床			2013	2014
特定ICU 後方病床(GCU)	12 床 18 床	病床利用 率(%)	NICU	99.9	100
新生児室	18 床			GCU	97.6
新生児専任医師	5 名	平均在院 日数(日)	NICU	11.4	12.3
看護師NICU GCU	25 名 19 名			GCU	16.4
看護補助員	4 名				
医師クレーク	2 名				
臨床心理士	0 名				
保育士(嘱託)	1 名				

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門：2012年4月1日～2013年3月31日)

## 居住医療圏別のNICU入院（2013）

医療圏	総数	出生体重（g）				
		<1000	-1499	-1999	-2499	2499<
北部	53	3	9	10	14	17
中部	338	22	17	71	87	138
南部	14	2	0	2	6	4
八重山	2					2

（2013.1.1-2013.12.31. 再入院は除く）

（沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門：2013年1月1日～2013年12月31日）

## 産科部門の課題

1. 産婦人科医師＝総数11名（50歳代が2名）
  - A. 産科担当医師は8名，婦人科担当医師3名
  - B. 産科，MFICU，婦人科部門の当直業務が荷重
2. 県内で周産期医療に従事する産科医が少ない
  - C. 北部医療圏のバックアップ
  - D. 宮古病院への産科医師派遣
3. 分娩件数が多く、周産期センター産科病床以外にも妊産婦が入院

（沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター産科部門）

## 産科部門の課題；他医療圏との連携

1. 母体合併症・妊娠合併症や社会的経済的問題を有するハイリスク妊産婦が多い
2. 婦人科患者も増加し、手術件数が増加
3. 新棟オープンにより外来ブースは増加したが、看護師の配置が追いついていない
4. 出生前診断症例の増加とその対策を構築する必要がある
5. 看護学生、助産学生の教育の負担がある

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター産科部門)

## 新生児部門の課題；システム

1. 定数 (30床) 以上の患者を受け入れることもある
2. 特にNICUは、常に満床状態で、新規の患者の受け入れが困難になることが多い
3. 病棟の構造上、ベッド間のスペースが狭く、院内感染のリスクが高い。プライバシーの確保も難しい。

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門)

## 新生児部門の課題；人材・フォローアップ体制

- A. 当直体制の維持のため7名の専属医師が必要
- B. ワークライフバランスを考慮した勤務体制の構築
- C. 短期予後は改善したものの、長期のフォローアップ体制が未整備
- D. 社会・経済的ハンディーの大きい家庭が多いため、早産児だけでなく、成熟児に対しても育児支援を充実させる必要あり
- E. 出生前診断、先天奇形の児に対するカウンセリングなども充実させる必要あり

(沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門)

## 北部から搬送された母児の問題

1. 母親の退院後の通院が困難（特に名護以北）
  - A. 母子関係の構築に支障が出る可能性
2. 早産児の発育発達のフォローアップが課題
3. 母乳の搬送が困難で母乳栄養が円滑に行えない
  - B. 逆搬送も往復2時間かかる
  - C. できるだけ早めの北部病院転院を考慮
4. 地域連携が必要な症例が多い
  - D. 若年出産、未受診妊婦、虐待ハイリスクの家族
5. 長期の発達評価が必要な症例でも、通院が困難

（沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児部門）

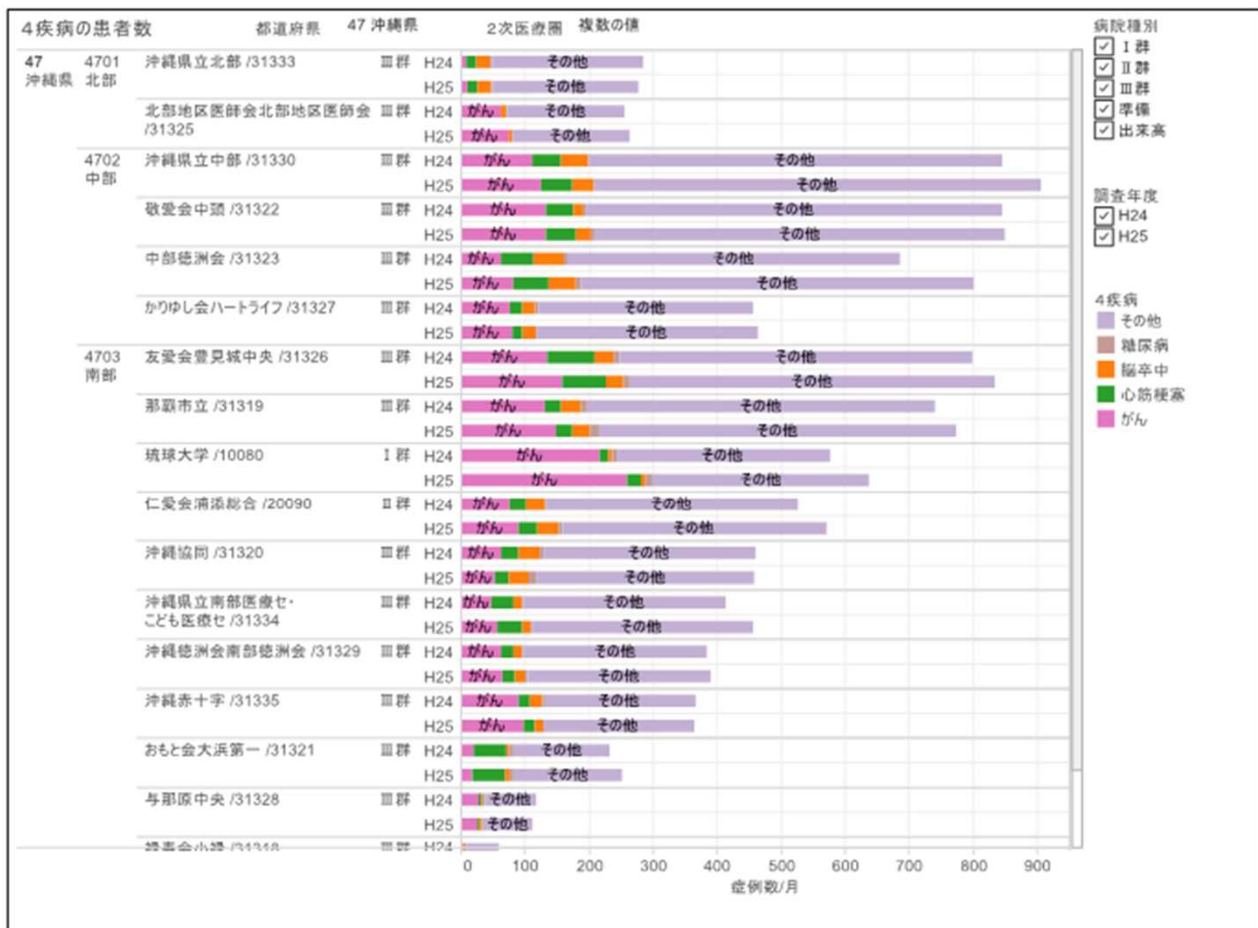
## 南部医療圏への母児搬送

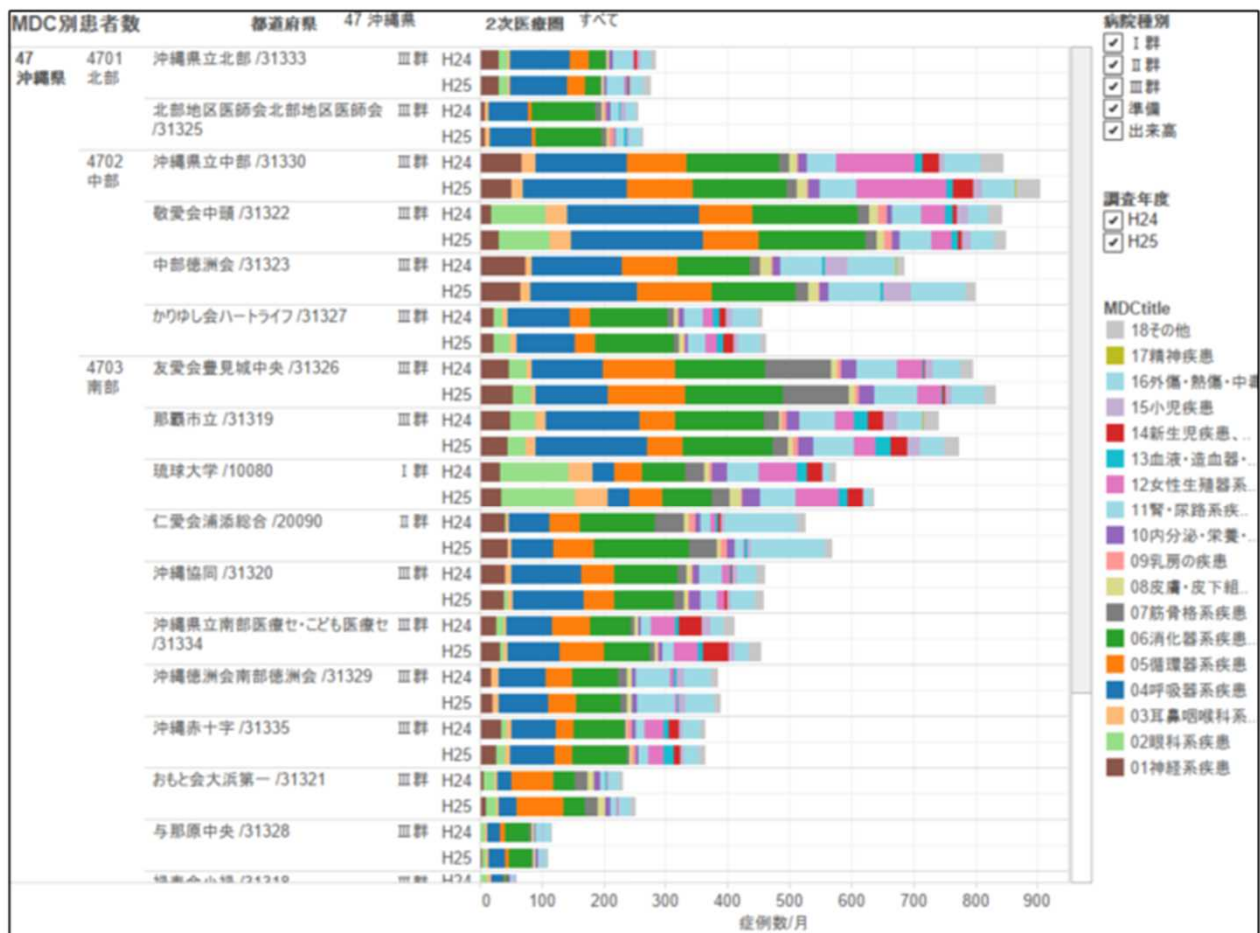
1. 南部医療圏への母児搬送（当院で受け入れ困難）例
  - A. 2014年 67件, 2015年 43件（9月25日現在）
  - B. 概算で年間 58.6人の搬送
  - C. 9月9日に最大11床不足
2. 中部病院の病床不足数
  - A. 新生児 -42 （内訳：NICU -10, GCU -24）
  - B. MFICU -10
3. 中部医療圏の周産期病床は、52床+8床（MFICUのバック病床としての一般病床）不足



## 中部圏域の4疾病医療と機能病床

1. 脳卒中
  - A. 急性期→救急医療、高度医療
  - B. 回復期→リハビリ、在宅医療
2. 心筋梗塞
  - A. 急性期→救急医療、高度医療
3. がん；一般医療～高度医療、在宅医療
4. 糖尿病；外来中心
5. 病床そのものが足りない



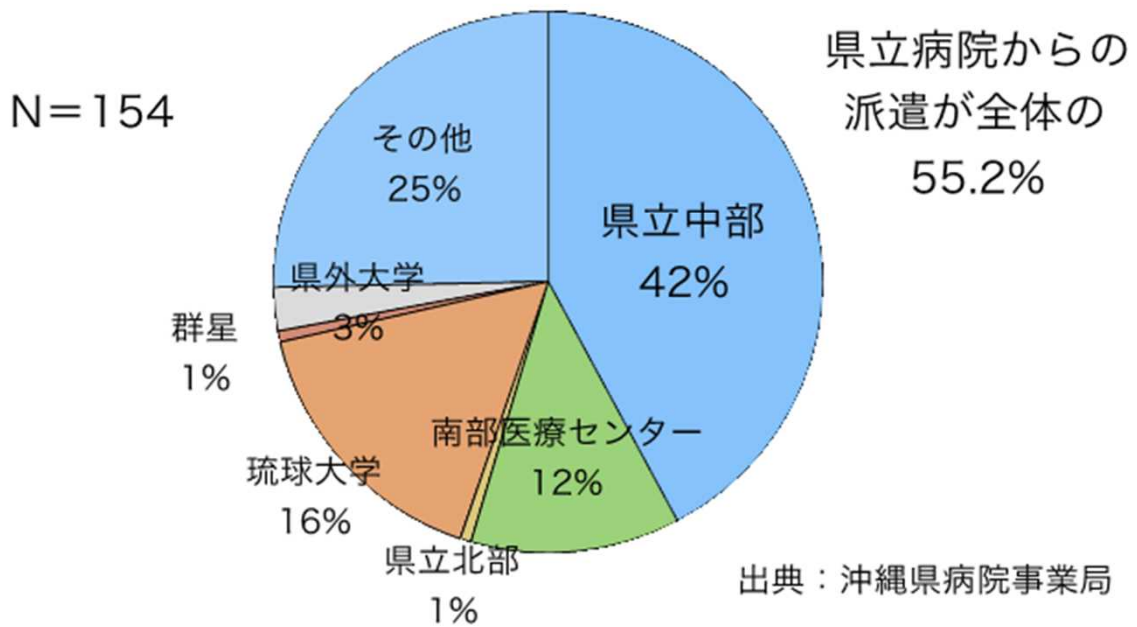


## 中部圏域の離島・僻地医療

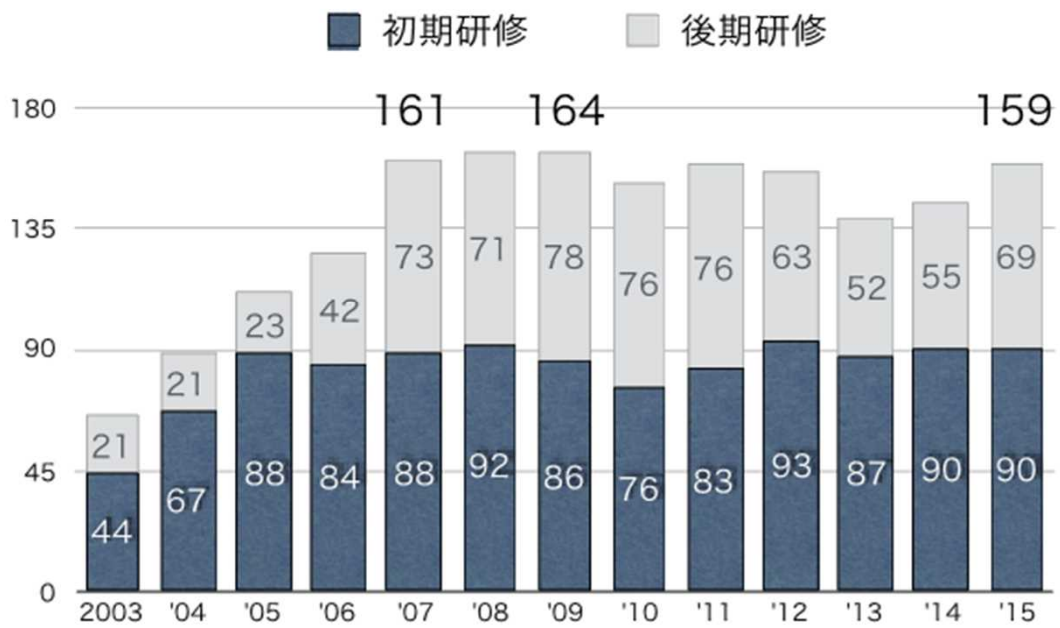
1. 県立中部病院が圏域内離島診療所を支援
2. 中部圏域外の人材育成・派遣
  - A. 北部・宮古・八重山圏域の病院、診療所へ
  - B. 県立中部病院の臨床研修、応援・派遣
  - C. 徳洲会病院間の応援
3. 離島医療に貢献する人材の効率的育成
  - A. 一定以上の症例数が必要 → 一定規模の医療機関（病床）、救急の研修が必要
  - B. 指導力のある指導医が必要

# 離島僻地病院・診療所への医師派遣

派遣元別医師構成（1年以上在籍する者）2014年度



## 県立病院研修医数の変遷



出典：沖縄県病院事業局